

食肉生産流通多角化施設整備支援事業の事業評価票

1 事業実施主体名：飛騨ミート農業協同組合連合会

2 事業実施期間：令和3年度

3 補助額（事業費）：23,100,000円（50,820,000円）

4 事業内容

■事業の目的
新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、海外でも、外食から家庭食へと消費ニーズが変化に伴い、需要の高まる小割加工に対応するため、真空包装機、シュリンク・チラー、搬送コンベアを一体的に整備し、他産地に先駆けて小割加工に対応した輸出を可能とし、更なる飛騨牛の輸出増加を図った。

■事業の内容及び実績
以下のとおり真空包装機、シュリンク・チラー、搬送コンベアを一体的に整備することで、他産地に先駆けて小割加工に対応した輸出が可能となった。

（1）容量が大きく、回転率の高い真空包装機を整備し、小割加工肉の滞留を防ぐことで、業務の効率化を図った。

（2）新たなシュリンク・チラーを整備し、シュリンク内での小割加工肉の滞留による肉の変質を防ぐとともに、ブル式からシャワー式へ転換することで製品の品質保持及び整流化を図った。

（3）搬送コンベアのつなぎ目を狭くすることで、小割加工肉が隙間に入る等のトラブルを未然に防いだ。

5 成果目標の達成状況

	精肉等の製造品目と輸出量（製造量）（ト）				
中間目標 (2022年度)	小割加工肉（製品）				
	11 (1,450)	()	()	()	()
目標 (2024年度)	小割加工肉（製品）				
	13 (1,450)	()	()	()	()
実績 (2024年度)	小割加工肉（製品）				
	8 (1,362)	()	()	()	()

6 農政局長等の総合所見

本事業について、輸出量は成果目標の5.7t増に対して実績は0.7t（達成率12.3%）と目標未達となった。

未達の原因については、輸出先国の経済情勢・日本国内の輸出認定施設の増加により、価格競争が激化し目標値として設定した26パーツ以上の小割加工肉から、加工料の安い15～25パーツ以下のものに輸出が移行したことから、成果目標未達となった。

成果目標達成に向け、小割加工肉の需要が見込める輸出先国に対し、飛騨ミートによる小割加工のニーズを高める等、目標達成できるよう指導を行う。